

第19回海洋立国推進功労者表彰受賞者

2. 海洋に関する顕著な功績 分野

自然環境保全 部門

氏 名	くまもとけんりつあしきたこうとうがっこう りんぎょうか 熊本県立芦北高等学校 林業科	
所 属	—	
功績の概要	アマモ場再生活動で未来へつなぐ 芦北高校プロジェクト	

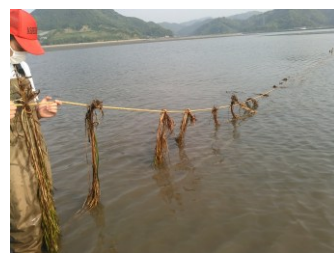
功 績 事 項

熊本県立芦北高等学校林業科（以下、芦北高校林業科）では、「森は海への栄養塩供給や土砂の流出を防ぐなどの機能を持ち、海洋生態系を支えているのは川を通じて上流に広がる豊かな森林である」という里海づくりの考えを前提に、森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出すため、陸域から沿岸域に至るまで継ぎ目なく様々な取組を行っている。この取組の一つであるゲンジボタル等の生息環境づくりでは、平成 24 年の「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞している。

さらに、同様の考え方のもと、アマモ場の再生活動にも尽力している。熊本県芦北町計石漁港周辺では、昭和 50 年代には 13ha あったアマモ場が、2003 年には 0.025ha まで減少しており、アマモ場の消失とともに漁獲量の減少が続く芦北町漁協の漁業者からの依頼を受け、2003 年から生徒が主体となり、アマモ場再生に資する研究、アマモが消失したエリアへの苗の移植や、アマモの花枝を結び付けたロープを海中に沈めることによる種子の供給などについて、学年から学年へ途絶えることなく受け継ぎ、23 年間取組を継続してきた。

この取組では、芦北高校林業科が林学の知識・技術を応用し独自に考案した、アマモの種子を効率的に供給する「ロープ式下種更新法」や、アマモ苗を束にして移植する「密植法」などの方法により、2003 年時点で 0.025ha にまで減少したアマモ場を、2020 年には 5.5ha にまで再生することに成功した。同年 7 月の熊本豪雨では土砂が堆積し再び 0.31ha まで減少したが、豪雨災害後も堆積した土砂を利用したアマモの育成手法を考案し、苗の移植や生育状況の調査、底質の分析なども行っている。また、アマモ場再生に関する普及啓発活動も行い、芦北地区のアマモ場の再生に貢献している。

さらに、2023 年からは鹿島建設株式会社、公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金、株式会社肥後銀行と連携し、芦北地区におけるアマモ場再生に向け相互に協力することとなり、2024 年にはこれら 6 者による「芦北地域におけるアマモ場をはじめとする藻場の再生に関する連携協定」が締結された。この体制の中で、芦北高校林業科は現場での活動の中心であり、地域活性化の取組の中核を担っている。



ロープ式下種更新法



アマモ調査の様子